

ちょっと足をのばして（荒滝・今小野方面）

10. 山城とりで跡

荒滝山頂には、戦国時代から江戸時代初期の山城跡が残っている。この山城は、大内氏の重臣、内藤弘春（16代）の子、興盛（17代）が築いたといわれる。

内藤氏は、文亀年間（1501～1503）以来、長門守護代を務め、大内氏の内政に参画した。興盛の子、隆春（20代）は、毛利元就と親しい間柄で、厳島合戦の時も一応陶晴賢に加担したものの、元就に通じていて動かなかった。隆春は大内氏滅亡後は、毛利元就に仕え、2,600石を与えられた。

隆春には子がなく、宍戸元秀の子、元盛（20代）を養子とする。元盛は、慶長19年、大阪冬の陣に佐野道可という変名で大阪方について参陣したが、大阪方敗北により自刃した。毛利輝元は徳川家康にはばかって、元盛の子、元珍（22代）・元豊兄弟を富海で切腹させた。船木の瑞松庵に、元盛・元珍親子と殉死した家臣が葬られている。こうして、内藤氏6代、100余年にわたる荒滝山城も、元和元年（1615）廃城となる。

11. 荒滝山山頂

標高459mで宇部市最高峰の山である。

荒滝山は山形もよく、山頂から四囲の眺望にも勝る名山で、晴天には西は関門海峡方面、東は防府方面に至る周防灘を一望に眺めることができる。山頂付近には、くぐり岩・天狗岩・大岩穴など巨岩・奇岩が見られ、頂上には明治天皇の陶像がおごそかに建立されている。

12. 荒滝の耳観音

下荒滝にあり、昔から耳病にかかった者が孔のある石を持参奉納して、この観音様に祈願すれば耳病が癒えるという伝説があり、参詣する人が多い。

13. 荒滝の滝

犬ヶ迫川の水、流れて滝となり、大なるを雄滝、小なるを雌滝という。

古き昔より人に知られている大滝であるため、荒滝の地名のもとになったという。

14. 今小野の11面観音（昭和41年6月10日県指定有形文化財・彫刻）

今小野円通寺に安置してある仏像で、1344年に伊佐別府城主築辺左近入道が仏師観阿に命じて造らせ、これを内藤氏に贈ったものと伝えられている。

仏像は座像で、座高57.2cm、これは仏像の18願の由来から定められたものである。

安置されて以来およそ650年の歳月を、片田舎の寺で、この名作を守り続けたものである。